



< H27090018 >

注意事項

- 1 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
- 2 問題は2～10ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
- 3 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
- 4 マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、試験開始後、解答用紙の氏名欄に氏名を正確に丁寧に記入すること。
 - (2) マーク欄には、はっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと(砂消しゴムは使用しないこと)。

マークする時	● 良い	○ 悪い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	○ 悪い	○ 悪い

- 5 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
- 6 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにする
- 7 いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
- 8 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

(一) 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。(なお、設問の都合上、文章の一部を改めている。)

哲学者たちの見解が表面的には区々々々であり、何の接点も認めることができないように見えるにもかかわらず、幸いなことに、少し辛ボウして言葉をゆつくり辿ると、感情の意味を明らかにする試みの背後に、前提となる形式的な共通了解を少なくとも一つは見出すことができます。彼らが共有しているものとは、感情が価値判断と一体をなすという了解です。私たちが感情を感情として把握することができるのは、「よい」「悪い」という **A** 判断に代表される価値判断と何らかの仕方で結びつけられるときであり、実際、感情の問題を哲学的な観点から主題的に取り上げることが、価値判断との関係において感情の意味を問う作業と見做すことが可能です。

そして、感情が価値判断と一体のものであるという了解を前提とすることにより、感情は、気分や知覚からおのずと区別されて行きます。というのも、気分や知覚に分類されるべき現象は、価値判断との必然的な結びつきを欠いているからです。「昂揚感」として意識に姿を現す気分、あるいは「痛み」の名を与えられた知覚は、決まった内容の価値判断と結びついてはいないように思われます。

とはいえ、知覚や気分は価値判断との必然的な結びつきを欠いているという説明を耳にすると、²痛みや昂揚感が判断に影響を与える可能性を想起する人がいるかも知れません。

(一) ①、たとえば次のような発言は、³知覚や気分が判断と一体をなすことを示す証拠であるように見えるからです。「俺は、腰が痛いときには、女房から何を言われようと、絶対に家事を手伝わないぞ、犬の散歩などもつてのほか」「ウキウキしているときには、つい必要のないものまで買っちゃって、必ず後悔するの」などのように、知覚や気分が判断を特定の方向へと導き、このかぎりにおいて、行動に影響を与える場合があるのを私たちは知っています。ひどい腰痛に苦しめられているときには、外出が面倒に感じられるでしょうし、気分が昂揚しているときには、警戒心が緩み、必要な散財に身をユダねてしまったり、^④詐欺の被害に遭いやすくなったりするかも知れません。

しかし、それとともに確かなことは、知覚や気分と価値判断とのあいだの結びつきが決して必然的ではないという点です。気分や知覚は、価値判断に「影響」を与え、これを「X」する可能性があるものであるにすぎず、価値判断と一体ではありません。実際、「腰が痛い」のおして「犬の散歩」に出かけることは不可能ではありませんし、気分が途方もなく昂揚しているときでも、金がなければ、何も買うことができません。

これに対し、感情の場合は、事情が異なります。たとえば、私たちの心が悲しみの感情に満たされるとき、この感情を心に惹き起こす原因となる出来事は、その都度あらかじめ何らかの決まった枠組のもとで解釈されています。当然、⁴個々の枠組は感情によって異なるのです。

スピノザは、名著「エチカ」において、悲しみに関し、これを「自分の愛するものが破壊されることを表象する人」の心に姿を現す感情として記述します。スピノザによるこの規定に対し日常的なレヴェルにおいて悲しみが成立するための条件を少し補うなら、悲しみは、自分の愛するものが何らかの仕方で毀損され、しかも、この毀損がいかなる手段によっても回復不可能であることを理解するときに私たちの心を訪れる感情として定義されるはずで

ア

感情とは異なり、知覚や気分には、このような解釈のための先行判断の枠組がありません。悲しみについては、理由を問うことが可能であるのに反し、痛みや昂揚感について問うことのできるのは、理由ではなく、**B** な原因だけです。この事実、知覚や気分が本質的に自然現象であり、生理的な事実であることを示しています。

V

(一) ②、知覚や気分が自然現象であり、生理的な事実であるという説明は、一つの疑問を惹き起こすでしょう。知覚や気分が自然現象であるのなら、同じように、感情もまた自然現象と見做してはいけない理由など認められないように思われるからです。

(一) ③、たとえば「怒り」の感情が意識に姿を現すとき、身体には、この感情に対応する変化が認められます。激しい怒りに囚われると、血圧が上昇したり、汗をかいたり、顔が紅潮したりするかも知れません。このかぎりにおいて、⁵具体的な感情の中には生理的な現象に対応しているものがあると考えることは可能です。しかしながら、血圧が上昇し

たり、汗をかいたり、顔が紅潮したりすることは、それ自体としては、怒りではなく、怒りに対応する生理的な現象にすぎません。これらは、「怒る」という行動を構成する身体的な変化の一部として理解されるべきものです。その証拠に、薬物を使用して血圧を上昇させ、発汗を促し、顔を紅潮させても、怒りの感情がこれらの生理的な現象とともに生れることはありません。薬物の投与で作り上げることができるのは、「怒り」という感情と「怒る」という行動との結びつきを容易なものとするような不快な気分や知覚にすぎないように思われます。

生理的な現象と感情のあいだには、一対一の関係など認められません。感情と生理的な現象が一対一に対応し、涙を流すことが悲しみと一致するのなら、「嬉し涙」なるものは矛盾した観念と見做されねばなりません。また、包丁を使って玉ねぎを切るたびに、不可解な悲しみに襲われることにならなければならぬでしょう。

詩人のハインリヒ・ハイネ（一七九七—一八五六年）は、有名な「ローレライ」の冒頭に「なじかは知らねど心わびて」と記しています。もとの美しい表現を散文的な日本語にあえて置き換えるなら、これは、「私はこんなに悲しいのに、これが本当はどういうことなのか、わからないわけだが」という意味になります。

④、この美しい言葉は、悲しみの感情の真相を伝えるものとして受け取ることができません。なぜなら、知覚や気分とは異なり、感情が感情として意識に姿を現すかぎり、つまり、この場合なら、悲しみが悲しみとして把握されるかぎり、悲しみの理由は、**C**に説明することが可能なものだからです。「なじかは知らねど心わびて」が本

当に意味するところは、

C **I**

となるはずです。

⑤、哲学史に名をとどめる哲学者たちは、**ウ**と見做す点において一致します。この共通理解は、さしあたり、感情の意味を問う試みにおいて哲学者たちが共有するただ一つの前提であると言いうことができます。

とはいえ、感情が価値判断と表裏をなすという見解は、少なくともそれ自体としてはまだ、積極的な意味を持つものではありません。というのも、価値判断と感情との関係には、二つの種類を区別することができるからです。すなわち、感情と価値判断が一体のものであるという主張は、①感情が価値判断の反映であり、価値判断に根拠を持つという主張と、反対に、②価値判断の方が感情に基礎を持つという主張、つまり、価値判断を感情の記号と見做すべきであるという主張、これら二種類に区分されることとなります。

感情と価値判断が一体のものであるというのは、「価値判断が感情に先行する」ことを意味するのか、それとも、「感情が価値判断に先立つ」ことであるのか、これは、哲学者により立場の分かれる点でもあります。少し抽象的な表現を用いるなら、前者が妥当なものであるかぎり、感情は、本質的に「**D**」なもの、つまり、真偽を問うことが可能なものと見做されねばなりません。

これに反し、後者の立場からは、感情が「**E**」であるという帰結が導き出されます。「感情が判断に先立つ」なら、感情は、真偽を問うことができないものであり、いかなる説明も受け入れぬものであることとなります。そして、価値判断を感情の表現と見做す後者の立場、感情を**E**なものとして理解する立場が一般に「情動主義」と呼ばれているものです。

情動主義に従うなら、感情について知ることができるのは、入力と出力の関係だけ、つまり、特定の心的状態が発生する条件と、この心的状態が行動に与える影響だけとならざるをえません。そして、哲学者たちの言葉は、感情をこのような単なる「**Y**」と見做す可能性を斥ける試みとして読むことが可能であり、また、このような観点から読まれることにより、初めて、意義あるものとなると私は考えています。

たしかに、情動主義は、感情をめぐる通俗的な見方や語り方に合致するものであり、したがって、通俗的な見方の抽象化により生れた科学的な見方や語り方に基礎を与えるものでもあります。つまり、情動主義にはながい歴史があり、私たちの常識は、感情の見方に関するかぎり、情動主義にすみずみまで支配されてきたと言うことができます。

しかし、それだけに、情動主義の引力から逃れ、「感情とは何か」という問を自由に問うことができるようになるためには、**E**それなりの体力が必要となります。哲学者たちの言葉は、情動主義の引力から逃れるための縁となるもの、感情をめぐる通俗的な見方から自由になることによって明らかになるはずの私たち一人ひとりの心のあり方を知るための手がかりとなるものであるに違いありません。

〔清水真木「感情とは何か——プラトンからアレントまで」より〕

問一 傍線部①～③のカタカナを漢字に改めるとき、同じ漢字をカタカナの部分に用いるものは、次の1～5の中のとれか。それぞれ一つずつ選んで解答欄にマークせよ。

- | | |
|-------------|----------------------------|
| ① 減ボウ処分を受ける | 2 人々の信ボウが厚い |
| 3 無ボウなふるまい | 4 病人を介ボウする |
| ② 大臣にニン命する | 2 イ細を話す |
| 4 日金残高を確認する | 5 囁タクで働く |
| ③ 1 ギ巧をこらす | 2 婚礼のギ |
| 4 ギ曲を書く | 5 ギ臍 <small>ま</small> に満ちる |
| | 3 ギ心暗鬼になる |
| | 5 同ボウを慈しむ |
| | 3 役割を分タンする |

問二 空欄 A E に入る語の組み合わせとして最も適切なものを、次の1～6の中から一つ選んで解答欄にマークせよ。

- | | | | | |
|---------|--------|-------|--------|--------|
| 1 A 道徳的 | B 物理的 | C 合理的 | D 認知的 | E 非認知的 |
| 2 A 道徳的 | B 物理的 | C 合理的 | D 非認知的 | E 認知的 |
| 3 A 合理的 | B 道徳的 | C 物理的 | D 認知的 | E 非認知的 |
| 4 A 合理的 | B 非認知的 | C 物理的 | D 道徳的 | E 認知的 |
| 5 A 認知的 | B 合理的 | C 道徳的 | D 物理的 | E 非認知的 |
| 6 A 認知的 | B 合理的 | C 道徳的 | D 非認知的 | E 物理的 |

問三 空欄 (1) (5) に入る語の組み合わせとして最も適切なものを、次の1～6の中から一つ選んで解答欄にマークせよ。

- | | | | | |
|-------------|-----------|-----------|----------|----------|
| 1 ① ① というのも | ② たしかに | ③ ただ | ④ ④ とはいえ | ⑤ ⑤ さて |
| 2 ① ① というのも | ② ② とはいえ | ③ ③ たしかに | ④ ④ ただ | ⑤ ⑤ さて |
| 3 ① ① たしかに | ② ② とはいえ | ③ ③ というのも | ④ ④ ただ | ⑤ ⑤ さて |
| 4 ① ① たしかに | ② ② というのも | ③ ③ ただ | ④ ④ さて | ⑤ ⑤ とはいえ |
| 5 ① ① ただ | ② ② というのも | ③ ③ たしかに | ④ ④ とはいえ | ⑤ ⑤ さて |
| 6 ① ① ただ | ② ② たしかに | ③ ③ というのも | ④ ④ さて | ⑤ ⑤ とはいえ |

問四 次の一文が入る位置として最も適切な箇所を、本文の空欄 I V の中から一つ選んで解答欄にマークせよ。

知覚や気分と価値判断のあいだに何らかの関係が認められることは事実です。

問五 次の1～4の文を正しい順序にし、空欄 **ア** に入るようにした時、三番目に来るものはどれか。最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選んで解答欄にマークせよ。

- 1 親しい友人が殴られている光景が私の心に怒りではなく悲しみを惹き起こすなら、それは、私自身がこの状況を変更する手段を持たぬという了解、自分が無力であるという了解の反映と見做されねばならなくなってしまう。
- 2 家族の死が私たちの心に悲しみを惹き起こすのは、家族を失ったという事実がいかなる仕方でも回復不可能であるからに違いありません。
- 3 同じように、家族の死の場合には、これが医療事故のような特殊な原因によるものであるとき、私たちの心には、親しい人の死が惹き起こす悲しみと医療事故の加害者に対する怒りが一緒に産み出されることとなります。
- 4 親しい友人が同級生に殴られているのを目撃するとき、私たちの心にまず発生するのは、悲しみではなく、むしろ、怒りまたは恐怖であるはずです。

問六 空欄 **イ**

に入る、筆者の考える「なじかは知らねど心わびて」の本当の意味として最も適切なものを、次の1～5の中から一つ選んで解答欄にマークせよ。

- 1 なぜ悲しいのか、それはよくわからないが、今は心がわびしくてたまらない
- 2 なぜ悲しいのか、そんなことは考えてわかることではないし、考える気もしない
- 3 なぜ悲しいのか、その理由を考えようとしても、心が落ち着かなくてとも考えられない
- 4 なぜ悲しいのか、その理由はわかっているのだが、自分でそう認めてしまうのは心苦しい
- 5 なぜ悲しいのか、その理由はよく考えればわかるには違いないのだが、考えるのはなぜか気が進まない

問七 空欄 **ウ**

に入る表現として最も適切なものを、本文中の傍線部1～5の中から一つ選んで解答欄にマークせよ。

問八 空欄「X」「Y」に入る語として最も適切なものを、次の1～5の中からそれぞれ一つずつ選んで解答欄にマークせよ。

- | | | | | | |
|---|------------|----------------------|-----------|------|------|
| X | 1 決定 | 2 凌駕 ^{りょうが} | 3 左右 | 4 翻弄 | 5 抹消 |
| Y | 1 グレーゾーン | 2 オーバーホール | 3 エアーポケット | | |
| | 4 ブラックボックス | 5 ボーダーライン | | | |

問九 傍線部工「それなりの体力が必要となります」の説明として最も適切なものを、次の1〜5の中から一つ選んで解答欄にマークせよ。

- 1 情動主義は、感情が先か価値判断が先かで長年争った結果勝ち取った成果であるため、情動主義者の堅い意志を変えさせるには、粘り強い闘争が必要であるということ。
- 2 情動主義は、歴史も長く、今では私たちの常識とも言えるほど日常生活のすみずみにまで浸透している見方であるため、その常識を覆すには、体力的にも知力的にも人並みすぐれた能力が必要であるということ。
- 3 情動主義は、価値判断よりも感情に重きを置くとらえ方であり、理性的・論理的な方法では相手を味方に引き入れることは困難であるため、入念な調査と準備に基づき、相手の弱点を見つけ出さなければならぬということ。
- 4 情動主義は、長い歴史を経て、通俗的な見方に発する今日の科学的な見方の基礎となっているものであるため、その影響力を排して感情そのものを真に見つめ直すには、困難をはね返すだけの相当な覚悟が必要であるということ。
- 5 情動主義は、感情をめぐる通俗的な見方や語り方と合致するもので、哲学的なもの考え方になじまない一般の人々にとっては受け入れやすい考え方であるため、それを説得するには、時間的にも金銭的にもそれ相應の負担が必要であるということ。

問十 本文の趣旨と一致しないものを、次の1〜6の中から二つ選んで解答欄にマークせよ。

- 1 感情の意味に対する見方は、プラトンははじめ、これまで多くの哲学者によって議論されてきたにもかかわらず、多種多様で共通の枠組みを見出すことは難しい。
- 2 知覚や気分が価値判断と一体をなすように見える証拠は経験的にいろいろとあるが、それらの結びつきが必然的とは言えないという点で、感情とは一線を画する。
- 3 感情が価値判断と表裏をなすといっても、感情が先か価値判断が先かで哲学者の立場も分かれており、前者の立場が一般に「情動主義」と呼ばれているものである。
- 4 感情にしる、気分にしる、知覚にしる、結局は自然現象・生理現象による反応に過ぎず、その原因や理由を問うたり、科学的な説明を求めたりできる性質のものではない。
- 5 情動主義の立場からとらえた感情は、ある条件を入力すれば一定の結果が出力されるという機能的な見方に基づいているが、その原理や内部構造の不透明さに光を当てるために、哲学者たちは長年様々な発言を繰り返してきたと言える。
- 6 スピノザは、「自分の愛するものが破壊されることを表象する人」の心に姿を現す感情を悲しみとしたが、その破壊によってもはや回復不可能となった事態を目の当たりにし、己の無力さを痛感するとき、怒りではなく悲しみが生まれてくる。

(二) 次の A・B の文章を読んで、あとの問いに答えよ。(なお、設問の都合上、文章の一部を改めている。)

A

いまの自分にとって、『竹取物語』がおもしろい理由は、厳密さにはほど遠い、ごく簡単なことなのである。その一つは、何と言っても、竹の林と月と天女という取り合わせが、自分の好みに合っているということ。昔ばなしに限らず、登場人物ののびのびと動く環境というのは大切で、密室の文学もわるくないが、読者としては、風が吹いたり雨が降ったり、樹木が茂ったり枯れたり、たとえ踏みつけられればそれまでのようなささやかな草花でもいい、咲いたり散ったりという場面がまったくないのは息苦しい。

人間だけを徹底的に追いつめて何がわるいか、といわれれば、それは悪いのではなくて好ききらいに属することだというほかはない。観念は、地下室だけでも、航行中の船室や飛行機の中だけでも肯定できる。ただ、心情は不自由でついで行きにくい。

根元のあたりの光っている一本の竹に近づいてみると、筒の中に三寸ばかりの女の子がいた、という時、反射的に醜い女の子を想像する読者がいるだろうか。小さいというなら、すぐに連想するのは一寸法師だが、箸の權を持つお椀の中の男子が、醜いという根拠は何一つないにしても、又、一方が女の子だからというでもなくて、この二つの昔はなしの雰囲気には、設定ひとつくらべてみてもはつきりした違いがある。

登場人物の動きつづける環境として、竹の林と月のある場、というのは、地上と天上と言い換えてもいい。しかし、そう急いでまとめるよりも前に、賤しい翁が腰を曲げ、わらじをしめやかに曳いている若緑色の竹の林を思い、竹の葉ずれの音を聞き、帝をはじめ、五人の求婚者にもついでぞぞとしない成長したかぐや姫をそこに重ね、雲に乗った天人たちが、地上五尺の高さに並んだ満月の夜と、月の出を待つ宵闇など思いつづけていると、この物語の環境の色調というものが、じつに豊かなそれとして、私をひき入れてゆく。しいて言うなら、幻想美で統一された色調の世界、とも言うおうか。しかもこの中には、貧しさも醜さも、闇の恐ろしさもあり、それが幻想美を強めるように思われる。好悪だけに頼っているようで気がひけるけれど、もう一つ、この物語でもおもしろいと思つているところを書く。

五人の貴族の求婚が、ことごとく甲斐ないあわれな状態で終わったあと、いよいよ帝の登場となる。まず、使者が遣わされるがこれは役立たず、それならばと狩の行幸にかこつけて、帝自身、翁の家に姫をたずね、奥へ逃げ込もうとする姫の袖をとらえて、御所へ伴おうと真意を示される。それでもなお姫の辞意が固いので、帝は、自分の考えは少しも変わらないといつて御輿を邸に寄せられると、姫は、つと影になつてしまふ。このところである。

「帝、なかさあらむ。なほ率ておはしまさんとて、御輿を寄せ給ふに、このかぐや姫、きと影になりぬ。」

影としてとどまるのだから、姫は、帝の前からまったく消え去つたわけではない。つい今さきまでの、A をなくすることによつて、姫は、帝のうちに、よりいっそう強く喚起されながら在りつづけていただろう。案の定、そなたの思い通りにするから、せめていま一度、もとの美しい姿を見せてほしいと帝は哀願される。

「げにただ人にはあらざりけりと思して、さらば、御伴には率て行かじ。元の御形となり給ひね。それを見てだに帰りなむ、と仰せらるれば、かぐや姫、元のかたちになりぬ。」

ここまでくれば、かぐや姫が、もとはと言えば月世界の住人で、穢い人間世界に贖罪のために下されていたということとは別にしても、地上の最高権力者ともいえる帝の言葉にも従わなかつた姫なら、いかに五人の貴族が望んでもと納得することはできない。それにしても、相手があまりに頑固で、自分への理解も示さず、歩み寄つてももらえないので、影になつて自己主張を果たしたというのは何とも痛快ではないか。

思つても詮ないことながら、作者は、どういふつもりで影にしたのだろう。

「面影に立つ」とか、「面影につと添ふ」という表現は、『伊勢物語』にも『源氏物語』にもよくあつて、人の思いのおのづからに招いた顔や姿である場合が少なくない。しかし、「きと影になりぬ」の行動の主体は姫である。帝ではない。むしろ帝は無関係ではないし、姫は、帝が原因で結果的に影にさせられたという見方はできても、発意は帝の側ではない。そうでもしなければ、帝は主張を変えられないので、自分が主張を変えまいとすれば、そうするほかなかつたということなのであろう。逃げたのではないし、消え果てたのではない。影として留まりながら、手を下さないで思いを遂げたというのは、女の自己主張の様相として看過せぬ。

女の自己主張の様相にも、歴史というものはある。歌詠みでも、物書きでもない女の直接の発言が、主張として、奇

異でも特殊でもなくなるまでには、それ相当の年月が積まれている。かぐや姫よりもかなり時代は下るが、同じ平安朝の女の自己主張という時、これ又すぐに思い出されるのは、『源氏物語』の中の六条の御息所で、生霊となって、無意識のうちに人に憑く御息所も、死霊となって同じことを行う御息所も、稀な、強い自己主張を枉げられなかった女性だと言える。

ただ、賢い御息所は、物の怪となつて、源氏と結ばれている人を苦しませることのはしたなさを知っているし、恥ずかしいと思うことにかけても敏感なひとであるから、不本意ながらそういう姿になつてしまった自分が、相手の源氏にどう見られるかについても、いち早く気持は動いていて、それだけに、滅入り方もひとしおというところがある。

なるほど、自分は源氏の正妻ではない。正妻ではないが、並の女のように嫉妬に乱れるほど矜りを失つてはいはしないという自覚は充分にある。それでもなお、源氏の格別の愛を、他のどの女にもまして高く、強くつなぎとめたい己れのあるのを、御息所は、物の怪となつた自分によつて、いやでも認めずにはいられなかったであろう。

この自己主張が、**B**の御息所の姿を、一旦は否定する生霊、死霊の姿ではじめて行われているということ、かぐや姫が、生身を否定した**C**になつて、帝の志のほうを変えさせてしまったことは、私の中でごく自然に結びつき、**D**的自己主張というもの一般に、連想は広く及んでとどまらない。

Eよりも、**F**のほうが効果的であるとか、どちらが先でどちらが後か、などということが問題なのではない。**G**でなければ果たされない自己主張があるということとを納得させる事実として、物の怪になつた御息所も、

Hになつたかぐや姫も、いまでもつて新鮮なのである。こういう主張の様相が、女の性状に拠る様相だとも言いきれないし、書いた人、それを後になつて改めととのえた人に、どれほどの意図があつたのか、なかつたのかもわからないが、読者の特権を活用して、私は大いに愉しんでいる。

(竹西寛子「影になつたかぐや姫」より)

B

ひそかに六条御息所のもとに通つていたとき、光源氏は、偶然夕顔という女性と知り合つた。次の文章は、夕顔の素性を調べさせていた光源氏が六条御息所を訪問した場面を描いている。後に、夕顔は六条御息所の生霊のために頓死した。

六条わたりも、とけがたかりし御気色をおもむけきこえたまひて後、ひき返しなめならんはいとほしかし。されど、よそなりし御心まどひのやうに、あながちなることはなきも、いかなることにかと見えたり。女は、いとものをあまりなるまで思ししめたる御心さまにて、齢のほども似げなく、人の漏り聞かむに、いとどかくつらき御夜離れの寝ざめ寝ざめ、思ししをるることいとさまさまなり。

霧のいと深き朝、いたくそそのかされたまひて、ねぶたげなる気色にうち嘆きつつ出でたまふを、中將のおもと、御格子一間上げて、見たてまつり送りましたまへとおほしく、御几帳ひきやりたれば、御頭もたげて見出だしたまへり。前裁の色々乱れたるを、過ぎがてにやすらひたまへるさま、げにたぐひなし。廊の方へおはするに、中將の君、御供に参る。紫苑色のをりにあひたる、羅の裳あざやかにひき結ひたる腰つき、たをやかになまめきたり。見返りたまひて、隅の間の高欄にしばしひき据ゑたまへり。うちとけたらぬもてなし、髪の下り端めざましくも見たまふ。

(「源氏物語」「夕顔」より)

(注1) おもむけきこえたまひて…思い通りにおなびかせになつて

(注2) 女…六条御息所。 (注3) 中將のおもと…六条御息所つぎの女房。

問十一 傍線部①「竹の林と月と天女という取り合わせが、自分の好みに合っている」理由として最も適切なものを、次の1～5の中から一つ選んで解答欄にマークせよ。

- 1 この物語が、豊富な色調をもっているから。
- 2 この物語に描かれる天人と姫は、寓話的だから。
- 3 この物語の竹林は、美しい幻想を感じさせるから。
- 4 この物語の姫が、一寸法師と異なってかわいらしいから。
- 5 この物語では、竹林の翁や姫がリアルに描かれているから。

問十二 空欄 A に入る語として最も適切なものを、次の1～5の中から一つ選んで解答欄にマークせよ。

- 1 真実の姿
- 2 あわれな姿
- 3 幼い姿
- 4 現実の姿
- 5 強い姿

問十三 傍線部②「見てだに帰らなむ」を単語にくぎつたとき、各単語の品詞として最も適切なものを、次の1～6の中から一つ選んで解答欄にマークせよ。

- 1 動詞・助詞・助動詞・助動詞・動詞・助詞
- 2 動詞・助詞・助詞・動詞・助詞
- 3 動詞・助動詞・助動詞・動詞・助動詞・助動詞
- 4 動詞・助動詞・助詞・動詞・助詞
- 5 動詞・助詞・助詞・動詞・助動詞・助動詞
- 6 動詞・助動詞・助動詞・助詞・動詞・助動詞

問十四 空欄 B H に入る語の組み合わせとして最も適切なものを、次の1～6の中から一つ選んで解答欄にマークせよ。

- | | | | | | | | |
|---|-------|-------|------|------|------|-------|-------|
| 1 | B うつつ | C 影 | D 間接 | E 直接 | F 間接 | G 直接 | H 影 |
| 2 | B うつつ | C うつつ | D 直接 | E 直接 | F 間接 | G 影 | H 影 |
| 3 | B うつつ | C 影 | D 間接 | E 直接 | F 間接 | G 間接 | H 影 |
| 4 | B 影 | C うつつ | D 直接 | E 間接 | F 直接 | G うつつ | H うつつ |
| 5 | B 影 | C 影 | D 間接 | E 間接 | F 直接 | G 影 | H うつつ |
| 6 | B 影 | C うつつ | D 直接 | E 直接 | F 間接 | G うつつ | H うつつ |

問十五 Aの本文の内容と一致するものを、次の1～6の中から一つ選んで解答欄にマークせよ。

- 1 かぐや姫は、五人の貴族の求婚を拒否したので、帝の意向に従うことができなかった。
- 2 かぐや姫は、穢い人間世界に下された自分を恥じて、帝の意向に添わずに影となった。
- 3 かぐや姫は、消え去るのではなく影となって、頑固な帝に自分を認めさせようとした。
- 4 六条御息所は、生霊や死霊になってまで、愛する源氏を誘惑した女に復讐したかった。
- 5 六条御息所は、嫉妬のあまり物の怪となった自分を嫌悪し、正妻になることを望んだ。
- 6 六条御息所は、源氏の愛を得るために、我が肉体を捨てるほど強い自己主張をもった。

問十六 傍線部③「なのめならんはいとほしかし」の現代語訳として最も適切なものを、次の1～5の中から一つ選んで解答欄にマークせよ。

- 1 恋い慕われたのはもったもなことです
- 2 特に美しいのはうらやましいことです
- 3 恐ろしい御様子なのは残念なことです
- 4 病気なのはまことに痛ましいことです
- 5 なおざりなのはおいたわしいことです

問十七 傍線部④「いとものをあまりなるまで思ししめたる御心さま」の説明として最も適切なものを、次の1～5の中から一つ選んで解答欄にマークせよ。

- 1 あきらめないでやり遂げる御執着心
- 2 ものを大切にお思いになるお心もち
- 3 極端までにものを思い詰める御気性
- 4 細かいところにまで気づくお心配り
- 5 我を忘れて尽くそうとされる御愛情

問十八 傍線部⑤「見たてまつり」→傍線部⑥「見たまふ」の敬語の中で、敬意の対象人物が他と異なるものがある。その語句を、次の1～5の中から一つ選んで解答欄にマークせよ。

- 1 ⑤見たてまつり
- 2 ⑥見出だしたまへり
- 3 ⑦やすらひたまへる
- 4 ⑧見返りたまひて
- 5 ⑨見たまふ

問十九 平安時代に成立していない書物を、次の1～5の中から一つ選んで解答欄にマークせよ。

- | | | | | | |
|---|-----------|---|---------|---|--------|
| 1 | 『浜松中納言物語』 | 2 | 『うつほ物語』 | 3 | 『正徹物語』 |
| 4 | 『狭衣物語』 | 5 | 『夜の寝覚』 | | |

〔以下余白〕